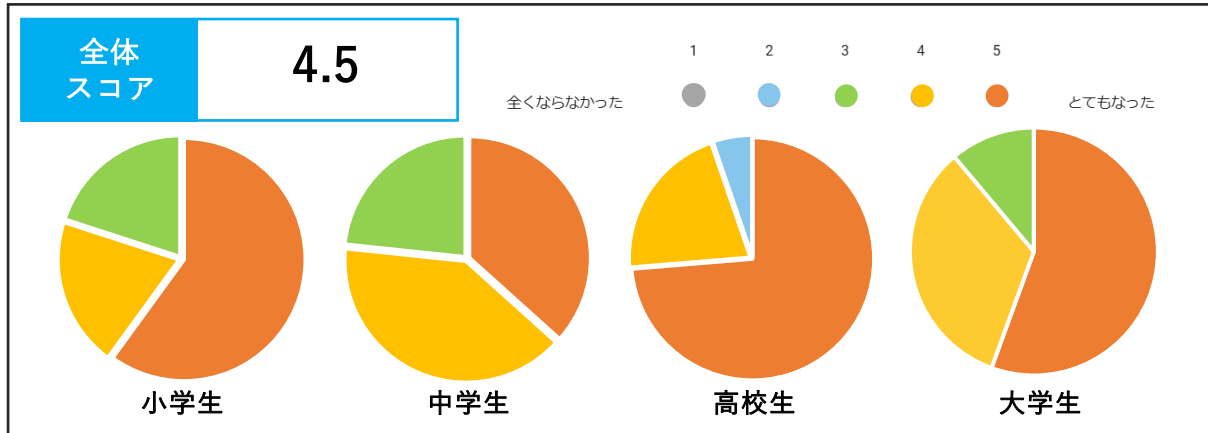
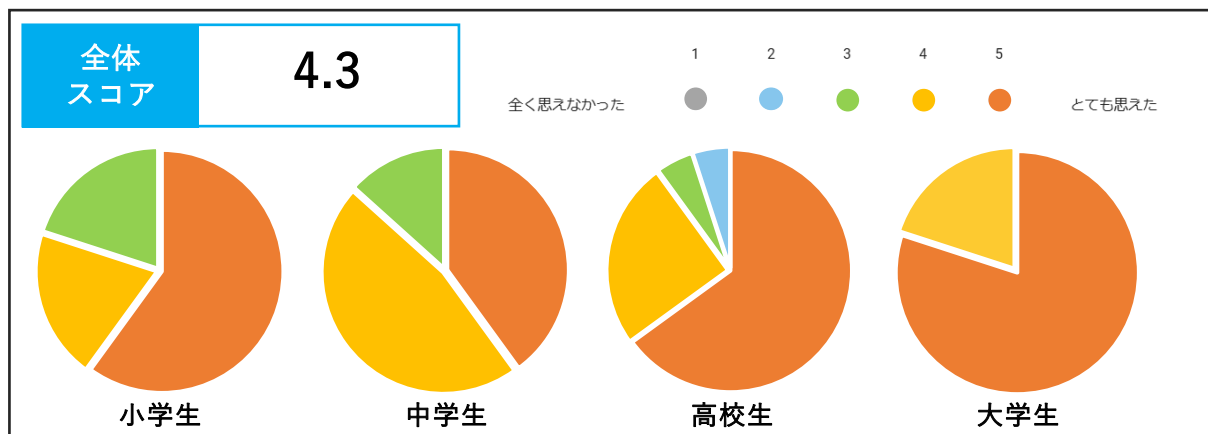


事業成果

Q3 「自分の未来」や「自分の生活」と結びつけて考えるきっかけになりましたか？



Q4 今後、平和について家族や友達と話したり、学んでみたいと思いませんか？



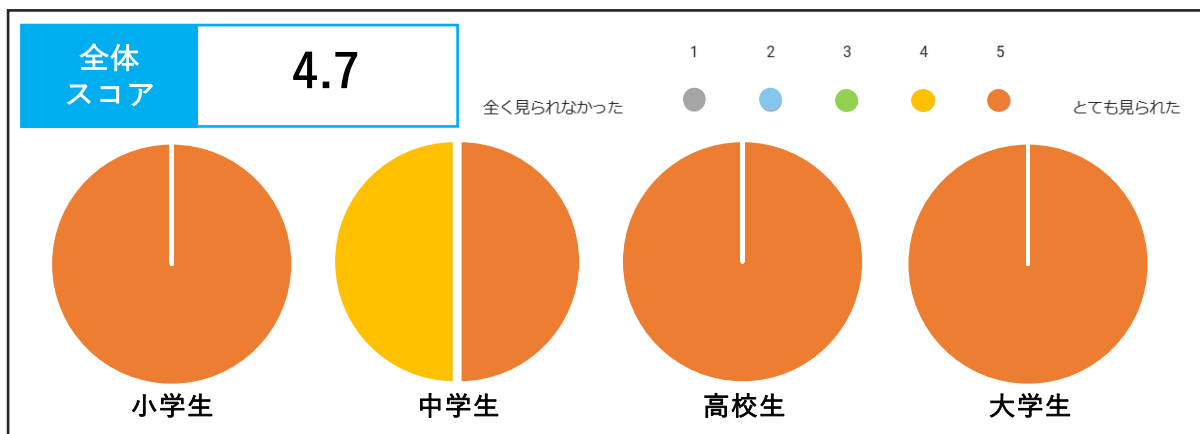
自由コメント

- ・普段見ている沖縄の今と昔を見比べることができて、戦後と戦前で全然違う風景が広がっていて、驚いた。また、その他周辺の歴史も同時に調べることで、その時代にあったもの、起きたことを知ることができた。
- ・ただ説明を聞くよりも自分で考えて答えを出すのでとても印象に残りました。歴史は年号や出来事を覚えるだけではなく、当時の人々の暮らしや町の様子まで想像し感じる事が大事だと思いました。
- ・沖縄についての深い知識が増えたことで沖縄に行って、資料館などに足を運んでさらにもっと知りたいと思うことができた。
- ・グループで話合えたことで、自分一人では気付かなかったポイントに気づくことができてより多くのことを細かな視点で気づき学ぶことができた。

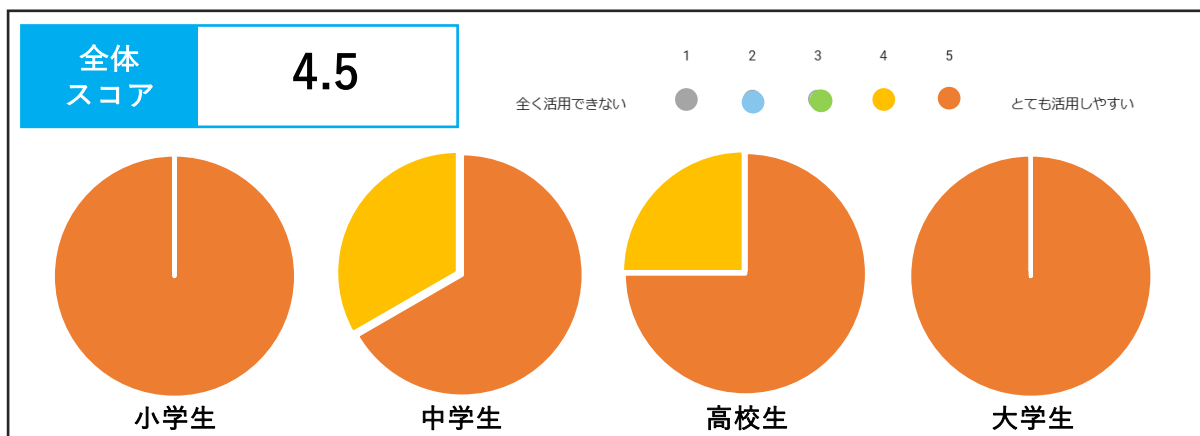
事業成果

教員向け

Q1 児童・生徒は主体的に参加し、学びを得ている様子が見られましたか？



Q2 本ワークショップは、学校教育の中で活用しやすい内容でしたか？



自由コメント

- ・子供達の平和の教材写真の見る視点の幅が広がりました。
- ・頭で考えるだけでなく、体を動かすことで取り組みやすかったと思う。
- ・これまで見てきたワークショップと違ったアプローチで面白かった。
- ・3年間継続して学習を行いたい。被らないようにコンテンツを増やしてほしい。
- ・普段の授業とは異なる角度からの学びを得られました。
- ・慰霊の日に関連する取組と連携できると、生徒がより実感を感じると思う。
- ・生徒から「楽しかった」と感想があったのが驚きでした。平和学習も楽しんでいいんだな、と私自身、大変学びになりました。

02 県外シンポジウム

SECTION 1

概要

平和を希求する「沖縄のこころ」を広く県内外に発信していくため沖縄へ思いを寄せる方、平和構築に向け国内外で活躍する様々な分野の方々を招聘し、平和啓発に係るシンポジウムを開催する。

タイトル : 戦後80年の今、みんなで考えよう。「戦後100年へ残す平和への”うむい”」

実施日時 : 令和7年11月24日(月・祝) 15:00~18:00

料金 : 入場無料

参加者募集 : 受託事業者によるSNS告知・ポスター設置・プレスリリース
広報連携事業者による広報活動(0623プロジェクト)

定員 : 先着300名(申込必須)

参加人数 : 276名

司会 : 沖縄テレビ放送アナウンサー 佐久本浩司氏

手話通訳 : 株式会社ミライロ 成田真由美氏、穂積美沙子氏

実施内容 : ①第一部 YUNTAKU STAGE (沖縄戦と平和劇+パネルディスカッション)
②第二部 UMUI STAGE (トーク&ライブ)
③特別企画 PEACE LETTER 平和へ想いを届ける参加型プロジェクト

SECTION 2

実施内容

■開催場所

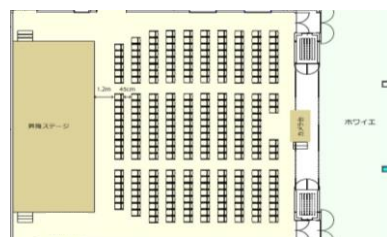
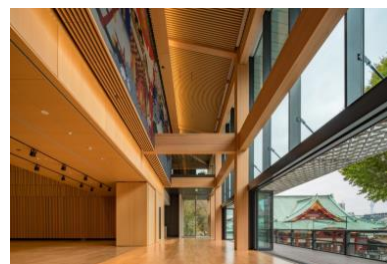
会場 : 神田明神ホール
(東京都千代田区外神田2-16-2 神田明神文化交流館2F)

アクセス

- JR 中央線・総武線[御茶ノ水]駅 徒歩5分
- JR 京浜東北線・山手線[秋葉原]駅 徒歩7分

■レイアウト

シアター形式で300席の収容を確保
(一般来場客用・報道陣用・関係者用・視聴覚障害者用で席を分けて配置した)



実施内容

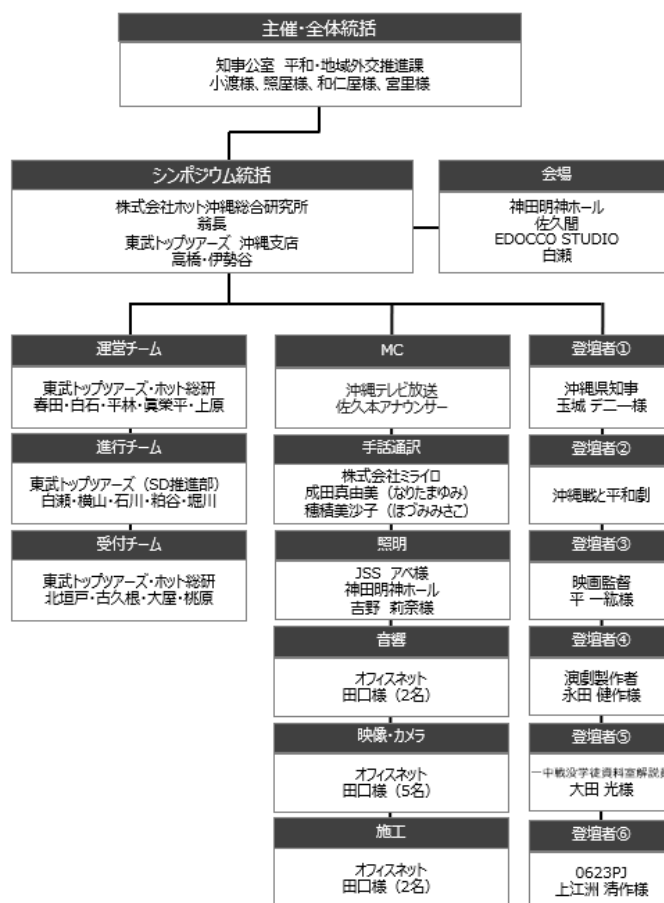
■来場者募集

下記の手法により参加者の募集を行った結果、定員300名を上回る事前応募があった。
なお、予約システムにはPeatixを使用した。

1. 広報連携事業者（0623project）のSNSを活用した告知の実施
2. 広報連携事業者による周知活動（What a Wonderful World!!25 ブース設置・チラシ配布）
3. プレスリリースの配信（配信後、57媒体にて記事掲載・展開）
4. SNS広告出稿の実施
5. 東武トップツアーズ各支店内でのポスター掲示
6. 東武トップツアーズ社内ニュース欄への掲示およびメール配信の実施（社員数約2,400名）
7. Peatixでの告知（開催会場フォローメンバーへの事前配信）

■企画・運営体制

沖縄からのメンバーに加え、東武トップツアーズ東京メンバーとも連携し、フォロー体制を構築した。円滑な運営を図るため、事前ミーティングを実施するとともに、当日の運営対応を行った。



実施内容

■全体構成

- ①第一部 YUNTAKU STAGE（沖縄戦と平和劇+パネルディスカッション）
- ②第二部 UMUI STAGE（トーク&ライブ）
- ③特別企画 PEACE LETTER 平和へ想いを届ける参加型プロジェクト

5分	主催者挨拶	玉城デニー知事
40分	「沖縄戦と平和劇」	「沖縄戦と平和劇」 実行委員会
60分	「YUNTAKU STAGE」	玉城デニー知事 登壇者3名
40分	「UMUI STAGE」	詩い継ぐ沖縄慰霊の 日プロジェクト
会場外	平和メッセージの記入	司会にて案内

■第一部 YUNTAKU STAGE 沖縄戦と平和劇+パネルディスカッション

「沖縄の想いをカタチに YUNTAKU STAGE」（45分）

次世代に向け、平和への想いを映画・舞台・資料館などカタチとして表現し継承する活動を行っている方をパネラーとしてキャスティングし「平和を希求する沖縄のこころ」の表現方法や継承方法について意見を交わし、参加者の共感や理解を深める。

沖縄戦と平和劇

宜野湾市在住の大城勇一氏（沖縄戦当時11歳）の証言をもとに創作された作品であり、沖縄本島南部のガマ（自然壕）で実際に起きた出来事を題材に脚色したストーリー。

緊迫感のある演出と迫真の演技により、会場は張り詰めた空気に包まれ、観客は強く引き込まれていた。来場していた子どもたちの中には、恐怖を感じながら保護者に寄り添って鑑賞する姿も見られた。



実施内容

パネルディスカッション テーマ

3つのテーマに沿って4人のパネリストをゲストにディスカッションを実施した。

1. 活動のきっかけ
2. 表現をするときの工夫点
3. 戦後100年に向けての思い

パネリスト



沖縄県知事
玉城 デニー (たまき でにー)

1959年沖縄県うるま市出身。上智社会福祉専門学校卒業後、中部地区老人福祉センター職員やラジオパーソナリティーを経て、2002年より沖縄市議会議員1期、2009年より衆議院議員4期を務め、2018年9月に沖縄県知事就任し現在2期目を務めている。



映画監督
平一 敏 (たいら かずひろ)

1989年8月29日生まれ、沖縄県沖縄市出身。桐谷健太主演『ミラクルシティコザ』で監督デビュー。堤真一、山田裕貴主演の最新作『木の上の軍隊』では第17回TAMA映画賞にて最優秀新進監督賞を受賞した。



演劇製作者
永田 健作 (ながた けんさく)

1981年生まれ。沖縄出身、在住。体験者の証言を基に創作した平和劇を2021年から開始。沖縄、広島、長崎、東京、大阪、北海道など、これまでに67公演を開催。



一中戦没学徒資料室解説員
大田 光 (おおた ひかり)

1989年大阪府生まれ、沖縄県在住。沖縄へ移住し、一中戦没学徒資料室の解説員に。現在、琉球大学大学院に在学。沖縄戦の男子学徒隊について、体験者への聞き取りや講話・ガイド等継承活動にも取り組む。

ディスカッションの様子

同世代のパネリストが多いということもあり、和やかな雰囲気スタートし、ディスカッション中は各々の活動のきっかけや工夫点などについて共感し合いながら、次世代に向けどのように表現を作り上げていく必要があるかを議論した。テーマごとに知事からのコメントも挟みながら、知事自身のエピソードなども交え平和発信について会場全体について考えることができた。



実施内容

■第二部 UMUI STAGE キヨサク氏 (MONGOL800) トーク & ライブ

「沖縄の想いよ届け！ UMUI STAGE」 (40分)

沖縄出身アーティスト「MONGOL800キヨサク氏」主催、詩い継ぐ沖縄慰霊の日プロジェクトとのコラボ企画。プロジェクト設立の背景についてトーク後、キヨサク氏が作詞作曲をした数曲を披露。楽曲制作の裏側にある想いを伝えることで、平和への願いやメッセージを歌にのせて届け、パフォーマンスで聴衆を魅了し、記憶とこころに残るステージ。

本シンポジウムの趣旨にふさわしい楽曲を数曲披露した。平和劇およびディスカッションの後の演奏であったことから参加者一人ひとりが「平和とは何か」について改めて考える良い機会となった様子がうかがえた。



■特別企画 PEACE LETTER 平和へ想いを届ける参加型プロジェクト

未来へ想いを届ける参加型プロジェクト「PEACE LETTER PROJECT」を実施。戦後100年の自分へ向けた戦後80年の私から伝える PEACE LETTERとして、手紙を模したカードを配り、ホールで入口のあるロビーにて記入スペースを設けた。


ロビーには、ワークショップに参加した生徒が記入したカードが展示され、多くの児童生徒のメッセージを見ることができ、さらに登壇者にも参加してもらい、舞台上での紹介を入れることで、参加を促した。

参加者がシンポジウムで感じた想いを記して残すことで、会場全体で平和への想いをカタチにする空間を作ることができた。

記入したカードをポスト型の回収ボックスに投函してもらうことで、より参加型の企画となり、ポストやカードの写真を使い、参加者が自主的に行ったSNSでの発信も多くみられた。

SPECIAL CONTENTS
特別企画実施中！

「未来へ想いを届ける参加型プロジェクト」PEACE LETTER PROJECT



20年後の戦後100年の未来へ向けて
今の想いを記しPEACE LETTERとして届けましょう！
記入したPEACE LETTERは
Instagram@ PEACE LETTERにて投稿し
戦後100年まで残し続けます。
あなたの想いを戦後100年へ届けませんか？

PEACE LETTER
PROJECT

わたしは戦後100年へ

を残したい

PEACE LETTER
PROJECT

実施内容

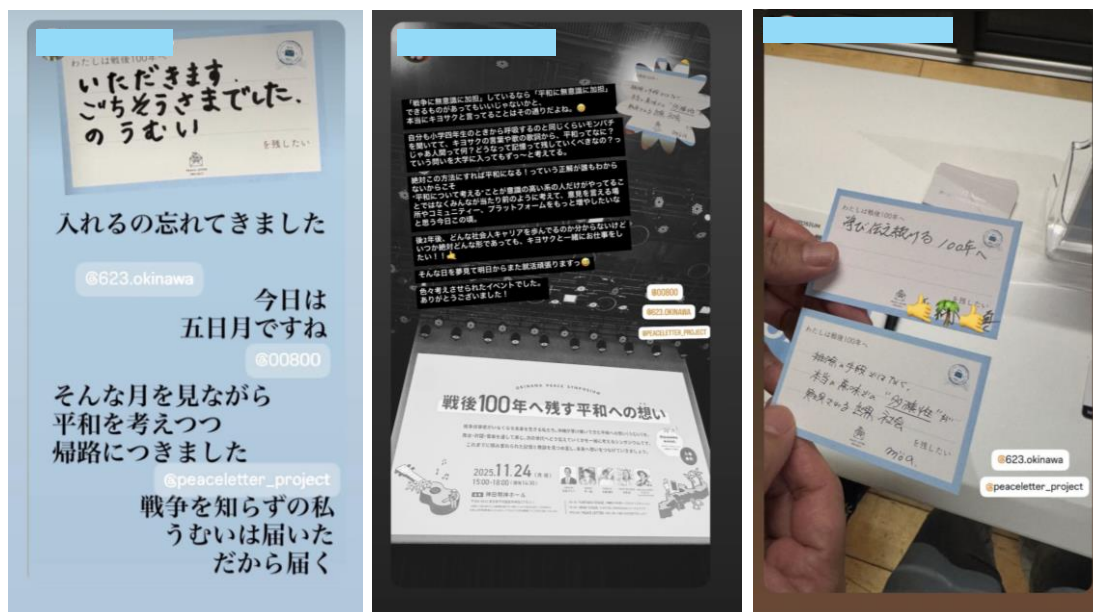
特別企画参加人数：162名（参加率60%）



ロビーでの展示を見学する参加者 メッセージを記入する参加者 メッセージを投函する参加者



参加者によるSNS発信



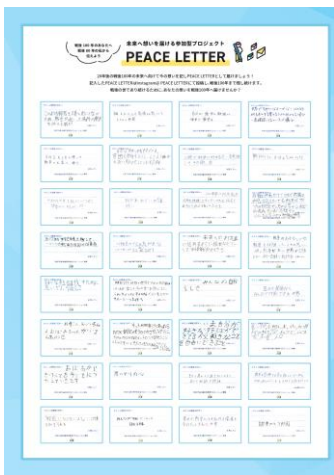
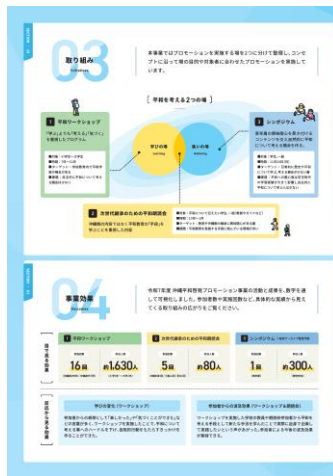
実施内容

■制作物

① 告知用チラシ・ポスター



② 展示パネル



実施内容

③ LP



④ アーカイブ映像

シンポジウムアーカイブ映像を3本に分割し沖縄県公式YouTubeにて公開。



(第1部 沖縄戦と平和劇) R7年度沖縄平和啓発プロモーション事業「...



(第2部 トーク&ライブ) R7年度沖縄平和啓発プロモーション事業「...



(第1部 パネルディスカッション) R7年度沖縄平和啓発プロモーション事業「...



事業成果

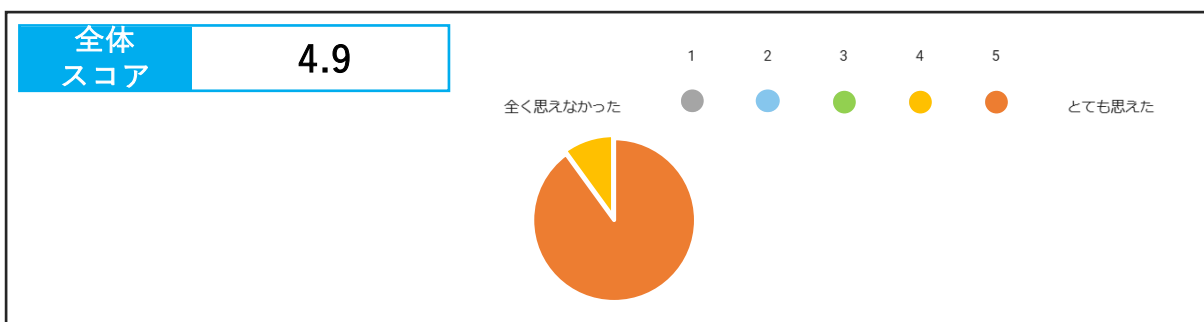
1. 実績

実施回数：1回
参加者数：276名

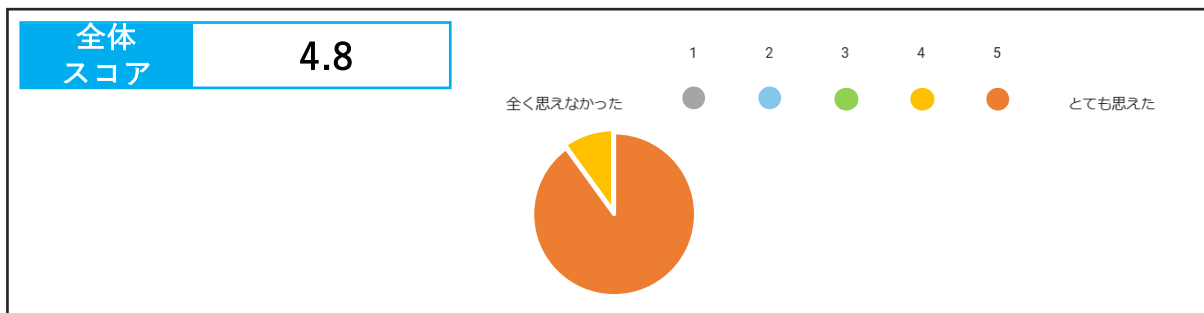
2. アンケート結果

シンポジウム参加者向けにアンケートを実施。
3問（平和への理解・主体性・共有・展望）＋自由コメント

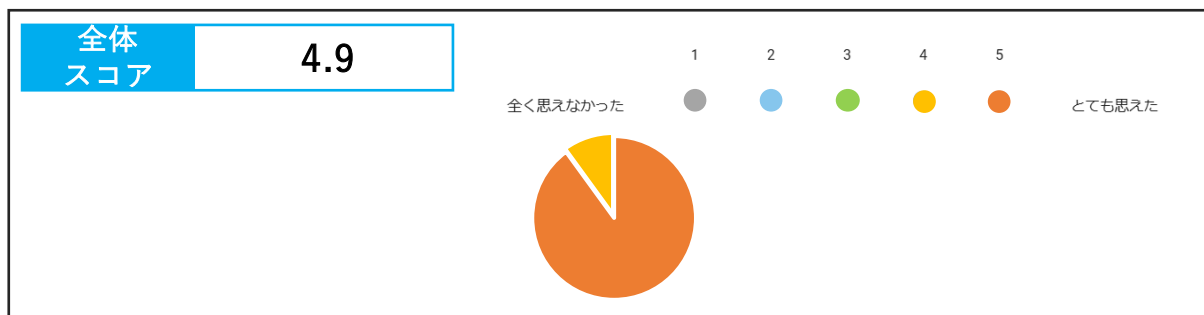
Q1 シンポジウムに参加して沖縄の歴史や平和への理解が深まりましたか？



Q2 平和について「自分の未来」や「自分の生活」と結びつけて考えるきっかけになりましたか？



Q3 本シンポジウムで得た内容を、他の人にも伝えたり、自分で学んでみたいと思いましたか？



事業成果

自由コメント

- ・日々の生活で平和について考える事はありませんでしたが、改めて見つめ直すいい機会となりました。特に平和劇は心に響く内容で臨場感溢れる演技でした。会場にきていた子供達も怖がっていながらも、色々な事を感じていたのではと思います。ふと、自分にとっての平和ってなんだろう、そのためにどうしていこうか、と考えながら、毎日のありがたみを感じて生活していこうと思います。
- ・初めて平和系のイベントに参加しました。沖縄が好きで平和について学ぶことにも抵抗はなかったのですが、イベントになると、固い印象があり、なかなか参加する勇氣はありませんでした。今回初めての参加でしたが、若い世代も多く来場していて、感情と頭と心と、それぞれで平和について感じ考えることができました。このような雰囲気イベントが増えてほしいです。
- ・沖縄出身の23歳です。SNSの広告を見て、5名で参加しました。就職で東京へきて沖縄を感じる機会がなく寂しかったため、会社の同僚を誘って参加しました。沖縄の人として、知らないといけないこと、伝えないといけないことがある事に気づきました。
- ・永田さんの平和劇が前々から気になっていたのを見る事が出来てよかった。
- ・音楽を通して平和を感じるって良い！メッセージ書けたこともよかった！
- ・今後とも若い世代に向けた継続的な発信が必要であると強く感じました。
- ・以前も同じようなシンポジウムに参加しました。今回は参加してよかったと思いました。

03

平和朗読会

SECTION 1

概要

地域により異なる沖縄戦の実相の継承に向け、多様な世代が新しい平和学習の一つである「朗読」を通じ、平和教育の担い手を育成する。

対象者：各圏域（北部、中部、南部、宮古、八重山）の県民
教員やガイド、平和を伝えたい学生

実施期間：令和7年10月～令和8年1月

参加募集：沖縄テレビ放送によるテレビ告知
受託事業者によるSNS告知・チラシ配布

実施規模：県内5回開催

参加人数：1回10～20名程

講師：沖縄テレビ放送アナウンサー
（佐久本浩司氏、植草凜氏、平良匠氏）

講師補助：受託事業者

実施内容：①形を学ぶ：朗読の基本スキルを学ぶ
②演出を学ぶ：朗読の演出を考える
③グループで朗読発表



SECTION 2

実施内容

1. 実施場所一覧

各圏域（北部、中部、南部、宮古、八重山）で実施。

圏域	日程	会場
南部	2025年10月19日（日）	沖縄県立博物館・美術館
宮古	2025年12月13日（土）	平良港ターミナルビル
石垣	2025年12月14日（日）	石垣市民会館
中部	2025年12月17日（水）	宜野湾ベイサイド情報センター
北部	2026年1月18日（日）	名護中央公民館

実施内容

2. 実施内容

■ タイムスケジュール

00:00～00:20	イントロダクション（事業概要＋自己紹介）
00:20～01:20	一部「形を学ぶ」（講師：アナウンサー）
01:20～01:50	二部「演出を考える」
01:50～02:20	発表練習
02:20～02:50	各グループの発表
02:50～03:00	感想・まとめ
03:00～03:10	終了

■ 詳細

第一部「形を学ぶ」実施内容

- ・朗読の基本スキルを実践をしながら学ぶ（発声/母音/滑舌/呼吸/姿勢など）

o	オ	e	エ	u	ウ	i	イ	a	ア
ko	コ	ke	ケ	ku	ク	ki	キ	ka	カ
so	ソ	se	セ	su	ス	shi	シ	sa	サ
to	ト	te	テ	tu	ツ	chi	チ	ta	タ
no	ノ	ne	ネ	nu	ヌ	ni	ニ	na	ナ
ho	ホ	he	ヘ	hu	フ	hi	ヒ	ha	ハ
mo	モ	me	メ	mu	ム	mi	ミ	ma	マ
yo	ヨ	e	エ	yu	ユ	i	イ	ya	ヤ
ro	ロ	re	レ	ru	ル	ri	リ	ra	ラ
o	オ	e	エ	u	ウ	i	イ	wa	ワ

【発声】
「自然な美しい声を大きく豊かにスムーズに出す」

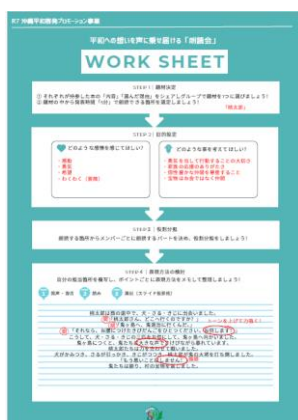
◇姿勢
◇呼吸
◇口の形
◇共鳴
◇耳を訓練

からだを楽に、体の力を抜いて、
器を離れて、声が入り流れ出るように、
声の高さに無理のないように、
耳で一音一音確かめながら。

【母音の発音】 — 母音の共鳴を重点に —

第二部「演出を学ぶ」実施内容

- ・朗読の演出をグループごとに決定。（ワークシートを活用して進行）



実施内容

3. 実施の様子


日時	令和7年 10月19日（日） 13:00～18:00
開催場所	那覇市 沖縄県立博物館・美術館
参加人数	22名
当日の様子	<p>・初回の朗読会を実施した。アナウンサー2名体制のもと、発声練習は参加者を2グループに分けて行った。序盤、チーム内で朗読箇所や読み方のテーマを決める際にはやや緊張した様子も見受けられたが、参加者は積極的に意見を出し合い、前向きに取り組む姿勢が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

日時	令和7年 12月13日（土） 13:00～16:00
開催場所	宮古島 平良港ターミナルビル 小研修室
参加人数	11名
当日の様子	<p>・初回より規模を縮小して開催した。参加者は質問等を通じてアナウンサーとのコミュニケーションを積極的に図っており、終始アットホームな雰囲気の中で進行した。朗読練習も和やかな雰囲気で行われ、発音や朗読表現に対する高い意識がうかがえた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

実施内容

3. 実施の様子

日時	令和7年 12月14日（日） 15:00～17:30
開催場所	石垣市民会館 大ホール
参加人数	15名
当日の様子	<p>・石垣市主催の平和フォーラムの開催後、同会場の舞台上で実施。フォーラム参加者からの参加者や、地域の朗読クラブの方々など、意識高く参加しているの方々も多かった。学生、親子、教師等様々なバックグラウンドからの参加があった。</p> 

日時	令和7年 12月17日（水） 18:00～21:00
開催場所	宜野湾ベイサイド情報センター プレゼンテーションルーム(A)
参加人数	11名
当日の様子	<p>・初の平日夜に開催した。参加者は講師のアナウンサーへ積極的に質問を行い、朗読への理解を深めている様子がうかがえた。また、それぞれの発表は個性を生かした方法で行われており、楽しみながら学びを深めている姿が見られた。</p> 

実施内容

3. 実施の様子

日時	令和8年 1月18日（日） 13:00～16:00
開催場所	名護中央公民館 小ホール
参加人数	11名
当日の様子	<p>・地域おこし協力隊や教育関連の方々の参加が多い回となった。各グループはテーマ設定や読み方に工夫を凝らし、全体としてスムーズに進行了。発表の演出においては、関連する音楽を取り入れるなど、個性的な表現を行うグループも見られた。</p>  

4. メディア掲載による事後広報

- ・沖縄テレビのニュース番組にて那覇開催時の様子を放映
- ・沖縄テレビ運営サイトOKITIVEにて事後レポート掲載



事業成果

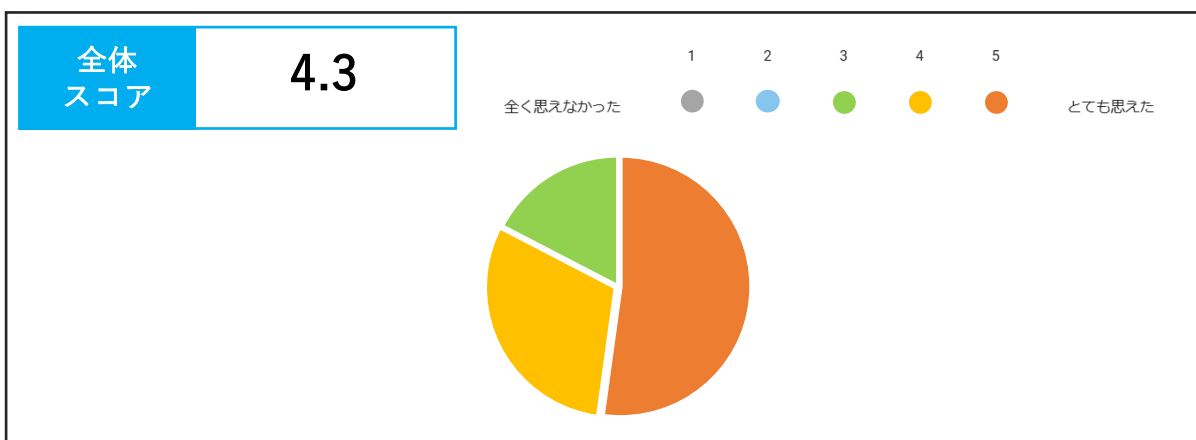
1. 実績

実施回数：5回（北部、中部、南部、宮古、八重山）
参加者数：70名

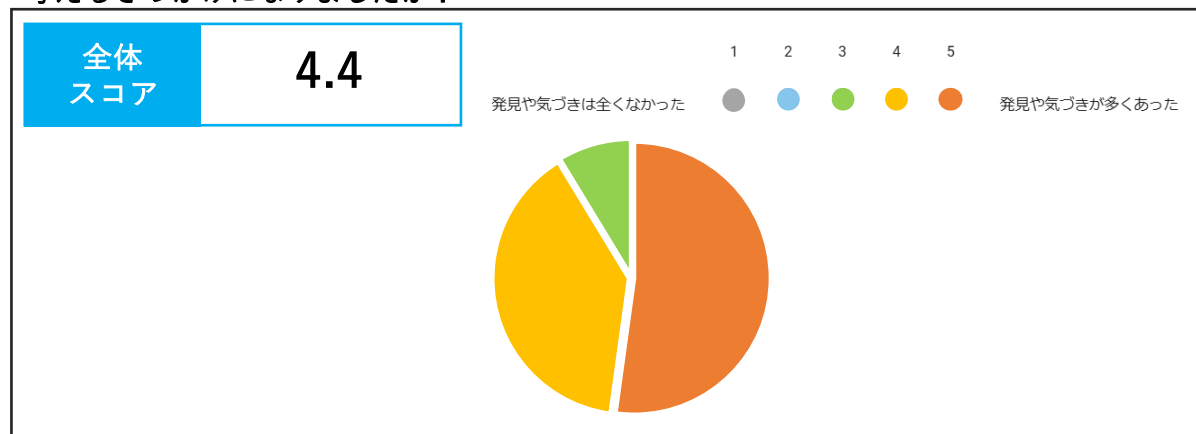
2. アンケート結果

参加者向けにアンケートを実施。
3問（平和への理解・主体性・自分事化・展望）＋自由コメント

Q1 朗読会を通して、平和について心に残る気づきや感情の変化はありましたか？

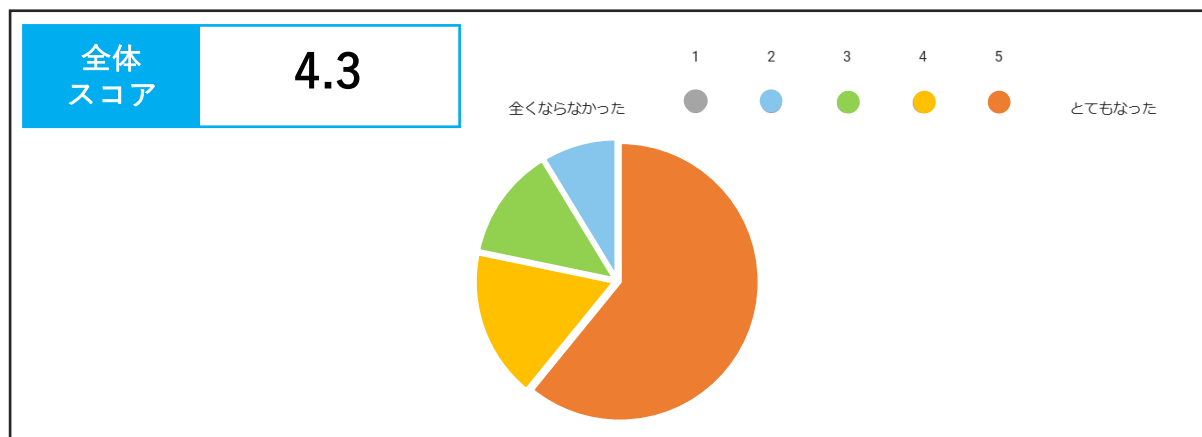


Q2 朗読を实践したことで、平和について「自分の未来」や「自分の生活」と結びつけて考えるきっかけになりましたか？



事業成果

Q3 平和について考える機会を自分でも作ってみたいと思いましたか？



自由コメント

- ・アナウンサーの方が、八重山平和祈念館を訪れてからの朗読指導でしたので、より臨場感のある助言をしてくださったのが、印象に残っています。参加して良かったです。
- ・とても良い企画に参加できたと思います。そこからの縁もできました。朗読と平和の結びつきがとても面白く、私でもこれならできると良いきっかけになりました。単発の企画でなく、もっと機会があれば参加したい気持ちと平和への関心と周知になると思います。
- ・朗読という生の声を通す事でより重みを感じる事が出来た。ぜひ今後も継続してほしいと思いました。
- ・自ら場を作ることは難しいけど、平和について考える場に積極的に参加して、現状や歴史を知っていきたいと思いました。
- ・読書ではなく、朗読という形でしたため深く理解し読み込む事ができました。また、様々なバックグラウンドを持つ皆様と顔を合わせる事ができ、平和について語らう事ができた事も大変良い機会となりました。また、アナウンサーの方からの朗読に関するアドバイスも頂けて、楽しく学べる時間でした。ありがとうございました。
- ・朗読の仕方について、アナウンサーの方から実際にレクチャーしてもらい、とても参考になりました。一緒に朗読した方とその後もプライベートでお会いしたり、平和について話をしたりとご縁も繋がっているのでありがたいです。参加できて本当によかったです。

アンケートまとめ

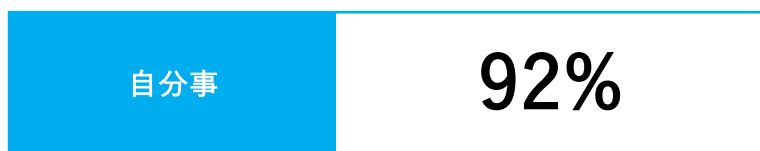
各取組で実施したアンケートは、取組間で比較可能な評価とするため、3つの共通評価軸を設定して実施した。

- ① 平和への理解・気づき
- ② 自分事化
- ③ 学習・発信意欲の喚起

〈取組別評価結果〉

評価軸	ワークショップ	朗読会	シンポジウム
理解・気づき	94%	86%	98%
自分事化	90%	88%	96%
学習・発信意欲	86%	86%	98%

〈評価ごとの平均〉



3つの取組における評価結果を平均すると、「平和への理解・気づき」は93%、「自分事化」は92%、「学習・発信意欲の喚起」は90%となり、いずれの評価軸においても高い評価が得られた。

04 平和への想いをカタチに アーティストコラボ企画

SECTION 1

概要

「音楽の力」を通じた平和発信

一般県民への平和啓発につながる取り組みとして、沖縄出身ロックバンドMONGOL800のボーカル上江洲清作氏が代表を務める「詩い継ぐ沖縄慰霊の日プロジェクト」とのコラボ企画を実施。事業内の他取組と関連付けた企画を実施することで、事業全体の平和啓発の効果を高める平和発信を実施した。

〈詩い継ぐ沖縄慰霊の日プロジェクトとは?〉

「無意識に平和に加担していける日常を」をテーマに様々なアーティストやクリエイターなどとコラボをしSNSを通じて平和発信を実施するプロジェクト。「平和」を継続的に発信するプラットフォームになる事、そして6月23日慰霊の日だけでなく常日頃から積極的に、無意識に「平和」に加担していく事その収益が永続的に「平和」に貢献することを目標として実施されている。

〈コラボ企画の取組〉

- 取組①：ワークショップの共同企画
- 取組②：県外シンポジウムへの出演
- 取組③：連携した広報活動の実施

SECTION 2

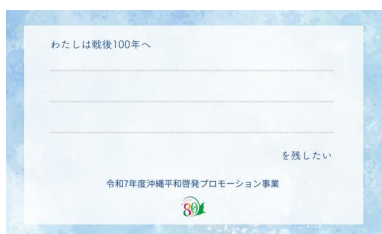
実施内容

1. ワークショップの共同企画

戦後100年のわたしへ送る平和メッセージ

ワークショップのアウトプットとして平和メッセージの記入を実施。プロジェクトのコンセプトである「無意識に平和に加担していける日常を」つくるため、戦後100年へ自分が残したい平和のカタチを考え、記入する企画。

本企画に関連して、上江洲清作氏からのビデオメッセージ映像を制作。子供たちに向け「音楽で平和への想いをカタチにしている」自身の活動を紹介。人それぞれが、様々なカタチで平和を表現し残していくことの大切さを伝えた。



実施内容

2. 県外シンポジウムへの出演

沖縄の想いよ届け！「UMUI STAGE」

シンポジウムの第二部：沖縄の想いよ届け！「UMUI STAGE」として、音楽を通し会場全体で平和への想いを広げるステージを実施。

ステージでは上江洲清作氏がUKULELE GYPSY キヨサクとして楽曲を披露しながら、「詩い継ぐ沖縄慰霊の日プロジェクト」の設立の背景や、平和への想いを音楽でどのように表現しているかをトークで伝えた。



沖縄戦の前年、卒業を迎える女師・一高女（ひめゆり学徒隊の生徒が通っていた学校）の生徒のためにつくられた「別れの曲」や「琉球愛歌」などを披露。

3. 連携した広報活動の実施

① What a Wonderful World!!25（MONGOL800主催音楽イベント）でのブース設置

11月に開催されたWhat a Wonderful World!!25にてブースを設置。イベントは2日間開催され、県内外から集まった来場者数は約2万人と過去最多を記録。イベント開催中はブースにて0623詩い継ぐ沖縄慰霊の日プロジェクトのメンバーがシンポジウムのチラシの配布や説明などを行い来場者へ、シンポジウムの周知を実施した。

② プロジェクト公式のSNSやサイトでの発信

0623詩い継ぐ沖縄慰霊の日プロジェクトの公式サイトやSNSにてイベント周知の投稿を実施。代表のキヨサク氏もSNSにて発信を行った。



05

その他

1. メディア取材

本事業の取組は、複数のメディアに取り上げられ、事業内容の周知につながった。主な掲載事例を以下に示す。

■ QAB キャッチー（平和ワークショップ 2025年10月7日 那覇市立松城中学校）



■ 沖縄タイムス（平和ワークショップ 2025年9月18日 宮古島市立上野中学校）



■ 北國新聞 / 北陸中日新聞（平和ワークショップ 2025年10月21日 金城大学 総合経済学部）



06 事業統括・今後の課題

【平和ワークショップ】

小学生～大学生までと幅広い年齢の児童生徒が対象となる事と沖縄県の平和教育の課題を踏まえた上で、内容を企画した。年齢や学年ごとに、解説方法や時間配分などは変動させたがメインの「沖縄ヒストリークイズ」の取組や解説する内容などは変更せずに、小学4年生～大学1年生まで統一して実施することができた。

反応としては、学校ごとにグループワークに慣れているかどうかの差はあるものの、全体的に小学6年生で実施した際の反応が良く楽しそうに取り組んでいる様子が見られた。また、高校生は個人のリサーチ力や推察力が調査結果に反映されていると感じた。

沖縄県内の学校募集の際に、学校側から「6月の慰霊の日で平和学習の時間を設けているため別の時期での実施が難しい」という声が多く挙がった。平和学習を実施する時期を分散をするという課題はあるが、学校現場ではまだ課題が反映できておらず6月に集中している事が分かった。

今後の事業展開として、単発的なワークショップではなく、1つの学校で年間を通し、複数回に分けて実施を試みて、対象年齢ごとに平和学習のモデルプログラムを作成するなどの取組を導入することで、課題解決を図れるのではないかと考える。

【県外シンポジウム】

今回のシンポジウムでは、アーティストとの共同広報を実施したことや、ターゲットを20代～40代の世代として、コンセプトやテーマを設定したことで、子供や学生の参加や、初めてシンポジウムに参加した方や、友達同士での参加が見られ、気軽に参加できる企画で実施することができ新たな層へ平和を考えるきっかけを届けることができた。会場参加型・SNS連動型の企画を実施できたことでさらに、平和発信の効果を高めることができたと考えられる。また、参加者だけでなく登壇者や、アーティストからも「楽しかった」という声が上がった点から、明るい雰囲気の中、会場全員で平和を考える空間を作りながらシンポジウムを実施することができた。

【朗読会】

本取組では、各圏域での実施効果を高めるため、事前に圏域ごとの平和関連の取組について調査を行い、その結果を企画内容や参加者募集の設計に反映させた。

また、沖縄テレビのアナウンサー4名を講師として招聘し、事前打合せを重ねながら企画の趣旨や進行方法について共通認識を図ったうえで実施した。

当日は、参加目的や朗読経験の異なる参加者が集まったが、グループ形式で互いに教え合いながら取り組むことで、参加者同士の学び合いが生まれ、円滑に実施することができた。その結果、参加者の朗読スキルの向上に加え、朗読を通じた平和発信の意義や効果を実感してもらう機会となった。



OKINAWA PEACE SYMPOSIUM

戦後100年へ残す平和への想い

戦争体験者がいなくなる未来を生きる私たち。沖縄が受け継いできた平和への想い(うむい)を、舞台・対話・音楽を通して感じ、次の世代へどう伝えていくかを一緒に考えるシンポジウムです。これまでに積み重ねられた記憶と教訓を見つめ直し、未来へ想いをつなげていきましょう。

Discussion & Live!

2025.11.24 (月夜)
15:00-18:00 (開場14:30)

会場 神田明神ホール

出演者: 島田 洋一郎、高橋 早織、高橋 早織、高橋 早織、高橋 早織

協賛: PONTAXI STAGE、SHIMAZU、OKINAWA PEACE LETTER

入場無料



沖縄県公式YouTubeアカウントにてアーカイブ配信中



沖縄戦と平和劇



パネルディスカッション



トーク&ライブ

令和8年3月

沖縄県知事公室 平和・地域外交推進課

受託先：東武トップツアーズ(株)/(株)ホット沖縄総合研究所